

これは予想以上に凄惨な状況になったな……  
ただこれはさすがにヤバイから、少し処置をしておこう……

翌朝



気を失った優香梨は肉体だけでなく、精神的にも大きな  
衝撃を受けて、「ここ数日の記憶が飛んだ上に、認識と一般  
常識に問題が起きていたようだ。」


「あれ………いつの間にか朝になってる………私、なんでここ  
で寝てたんだろう………」  
「とにかく、はやく学校に行かないと………」

んん

んん







優香梨の胸はあの状態と比べて随分と縮んだが、普通の  
人からするとやはり恐ろしい程の大きさだ。ただ、常識が  
ズレたせいなのか、優香梨はまったくこの状態に違和感  
を感じなかった。

ムニッ

チラッ

「着替えよしっと。でも、なんだか体が重くてダルいわ……」  
「昨日何かあったのかしら……うっ、頭が痛い、何も思い出せ  
ないわ……」

The background is a bright, blurred outdoor scene. It shows a paved road with a white line on the left and a yellow curb. There are green trees on both sides, and buildings are visible in the distance under a clear blue sky. The overall atmosphere is bright and sunny.

登校途中



えっ、あの人は……隣に住んでいるお姉ちゃん!?

えっ!?!? な、何あの子? 痴女!?!? いや、それよりもあの胸、一体なんなの……!?!?

!!

!!

「うう……体が重いしダルい……  
しかもなんだか皆こっちを見てる気がするわ……」

「たまたに見られているのは知っているけど、  
今日はなんだかやけた……なんてだろ……」

あ、あのお嬢さん、大丈夫ですか？その、色々大変そうなんですけど……

ビーン

ビーン

サワ  
サワ

「あっ、大丈夫です。今日は少し体調がよくないみたいだけど、学校に行くくらい問題はないと思います。」



えっ、いやいや、その胸はどう見ても……  
あっ、違っ、そ、その服装はたぶん大丈夫じゃない  
と思いますよ……

「ちょっとそれ、セクハラですよっ」  
「確かに私の胸は同年代の子より少し大きいですけど、  
まだ普通の範囲ですよー」  
「それ以上してっへんするんなら、警察呼びますよー」



(そっいえば、なんか朝から胸がちよっとおかしい気がする……)  
(うっん、きつとああ言われたから変に意識したせいよ！  
考えすぎ……だよな？)  
(あ、あれ？足に力が入らない……なんか、うまく歩けない……)

びるん

びるん

びるん

(学校に着いたら、まず保健室に……)  
(なんだか、胸が張ってきて苦しい……あれ？私、  
元からこんなんだっけ？)  
(私の胸……もともともこんな大きさだったっけ……?)

あっ、お、お姉ちゃんのおっぱいがふくらんで……  
えっ！っ！ほ、母乳が出てる！っ！

ゴロゴロ

ポッ

キヤアアアアア！何よめね！バケモノよ！





うわああああ！母乳が全身に掛かった……  
あの女いったい何なんだよ？いや、でもこれは  
もしかしたらワンチャン……  
へへっ、少しあとをつけてみよう……

ヒッ  
ヒッ  
ヒッ

「っ、っ、っ」

(あ、あれ？地面が濡れて……)  
(急に雨が降ってきたのかな……？)  
とにかく、早く駅に行かないと……)



あたりの騒ぎどころか、自分の胸から大量な母乳が吹き出している異常な状態に気づいていない優香梨は、ふらふらした足取りでゆっくりと電車の駅へと向かった。

今日もまた優香梨にとって、悪夢のような一日が始まった。